

J-PARC/MLF

特定共用ビームラインの利活用講演会・見学会を開催

総合科学研究機構 (CROSS)と共催で

2016.2.5



福島喜章氏



篠原武尚氏



講演会会場にて

2月5日(金)13時30分から、いばらき量子ビーム研究センター(IQBRC)内の会議室にて、当協議会の平成27年度最後を締めくくる行事として、(一財)総合科学研究機構/東海事業センター(CROSS・東海)との共催による、「J-PARC/MLF(物質・生命科学実験施設)特定共用ビームラインの利活用」と題した講演会と見学会が開催されました。

J-PARC/MLFの中性子利用では、7本のビームライン(BL)が特定共用BLとして指定され、CROSS・東海がJ-PARCセンターと協力して、学術的基礎研究から産業利用までの幅広い分野で、利用促進の業務に取り組んでいます。今回は、特定共用BLとCROSS・東海の手組みの紹介の他、平成27年4月より共用開始されたBL22「螺鈿」に焦点を当て、講演・見学会を企画したものです。

講演会では、最初にCROSS・東海の福島喜章氏から、「特定共用BLの紹介とCROSSの手組み」と題して、中性子の広い利用領域の説明から説き起こし、管掌の7つのBL利活用施策や具体的な成果について説明戴きました。続いて、J-PARCセンターの篠原武尚氏から「エネルギー分析型中性子イメージング装置「螺鈿」の利活用」の演題のもと定常中性子とパルス中性子の特質を比較しながら、当該BLが有する機能と特長の説明と共に、利活用への期待が表明されました。

2つの講演の後、J-PARCセンターのご好意により、原子力機構(JAEA)見学用バスを配車戴いて、会場をJ-PARC/MLFに移し、講演者の篠原氏の同行説明の許、BL22「螺鈿」の実機を見学しました。今回は機器の休止中を利用して遮蔽体内部の供試台近傍まで見学することが出来たことが特筆されます。透視装置である「螺鈿」は、出席メンバーがそれぞれ身近に感じて関心も高く、見学現場や講演会場に戻ってからも活発な質疑応答が繰り広げられました。今後の積極的な利活用への展開が期待されます。



活発な質疑応答

又、見学時には併せて第1、第2実験ホールのキャットウォークから施設全容を見学でき、共用BLの有する機能説明や期待されるミッションにも懇切に言及



第1BLホール見学



「螺鈿」遮蔽体内部の供試台近傍で

戴きました。尚、今回の講演会及び見学会には、事務局を含めて26名が参加し参加者間の情報交流も含め意義深いものとなりました。

協議会ホームページを更新

本協議会に関する情報は(株)ひたちなかテクノセンターのホームページ(<http://www.htc.co.jp>)に掲載されておりますが、この程情報の充実と検索の便宜などを考慮し下記の様な更新(リニューアル)を実施しました。

1. 階層構成を見直し、検索の操作性を向上しました。
2. 15件の県内企業による利用実績を掲載しました。
3. 既に登録された企業情報内容を見直し増補すると共に合計81社を登録紹介しております。
4. 企業情報には具体的なJ-PARCに向けた納入事例13件を掲載し、新規参入のヒントをご提供しています。
5. 新たに、これ迄発行した「協議会ニュース」のアーカイブを掲載しました。

***** J-PARC NEWS 発行 *****

J-PARC NEWS 第130号が発行されました。

<http://j-parc.jp/ja/news/news-j.html>